

救急部

●体制

時間内の救急外来は2名の救急部専属の医師（日本救急医学会指導医）が対応している。1次救急から3次救急まで救急患者の初期診療を行っているが、より専門的な治療、技術が必要な場合には各科の救急担当医がそれに当たる。循環器センター（CCU）と脳神経外科（頭部外傷を含む）は大阪府の第3次救急医療施設として認可されており、365日24時間体制で重症患者の受け入れを行っている。

夜間（時間外）、休日は内科系医師2名、外科系医師2名、研修医3名の計7名が救急外来の担当医として日当直を行う。さらに循環器内科、脳神経外科、産婦人科、小児科、麻酔科は毎日単科で当直に入っており、総数12名の医師が当直している。また、すべての科は当直時間帯にも専門科医が治療を行うことができるようバックアップ体制を敷いている。

当直医は当直時間帯での業務に関しては当直業務マニュアルに則って行っており、以前に比べて比較的円滑になってきた。

救急部は本年度は組織の改編を行い、新たに創設した総合内科とともに総合診療センターとして診療にあたることになった。

●スタッフ

- ・部長 木内俊一郎
- ・副部長 新谷 裕

●実績

		単位	
救急患者総数		人	20105
	うち、時間内	人	4574
	うち、時間外	人	15531
1次救急患者数		人	17045
2次救急患者数		人	2529
3次救急患者数		人	531
救急車搬送受入れ総数		件	4142
	うち、時間内	件	1055
	うち、時間外	件	3087
救急部経由入院患者総数		人	3006
	うち、時間内	人	1029
	うち、時間外	人	1980
入院患者数	心臓センター	人	235
	脳神経センター	人	436
	消化器センター	人	411
来院の方法	直接搬送	人	946
	他の医療機関経由	人	756
救急部への紹介患者数		人	1145
来院時心肺停止患者数		人	49

● 業績

学会

1. Shigeru Hakoda, Hiroshi Shinya, Shun-ichiro Kiuchi : Esophageal obstruction caused by medication bezoar after intentional overdose of chlorpromazine hydrochloride: A rare complication of most popular antipsychotic.、Asian Conference on Emergency Medicine、2009.5.16
2. 新谷 裕、箱田 滋、木内俊一郎：都市型救急部における小児の急性中毒の現況 日本小児救急医学会 2009.6.19（熊本）
3. 新谷 裕、木内俊一郎：当直医が有機リン中毒と誤認したコリン作動性クリーゼの1例 日本中毒学会総会・学術集会 2009.7.25（東京）
4. 木内俊一郎：日本救急医学会近畿地方会セッション A-1、CPA・教育、座長、2009.7.11（大阪）
5. 木内俊一郎：プライマリケアの場でのショック 西淀川医師会学術講演会 2009.9.15（大阪）
6. 木内俊一郎：いざという時、小児救急のいろいろ 東住吉区学校保健協議会大会 2009.11.20（大阪）
7. 木内俊一郎：広域大規模災害の発生に備えて～徳島県阿南市の場合 徳島県歯科医師会阿南市那賀郡支部オープンセミナー 2010.1.28（徳島）

論文

1. 木内俊一郎 慎重な対応が求められるシチュエーション第1回、研修医通信、2009、4、28、P12、株式会社羊土社
2. 木内俊一郎 慎重な対応が求められるシチュエーション第2回、研修医通信、2009、6、29、P12、株式会社羊土社
3. 木内俊一郎 慎重な対応が求められるシチュエーション第3回、研修医通信、2009、8、30、P12、株式会社羊土社
4. 新谷 裕、箱田 滋、木内俊一郎 臭化ジスチグミンによるコリン作動性クリーゼを発症した前期高齢認知症患者の1例、日本臨床救急医学会雑誌、2009、12(4)：453-457
5. 木内俊一郎 慎重な対応が求められるシチュエーション第4回、研修医通信、2009、10、31、P12、株式会社羊土社
6. 木内俊一郎 慎重な対応が求められるシチュエーション第5回、研修医通信、2009、12、32、P12、株式会社羊土社
7. 木内俊一郎 慎重な対応が求められるシチュエーション第6回、研修医通信、2010、2、33、P12、株式会社羊土社